

総長候補者に3人決定

合同インタビュールにに応じる

11月9日に朱雀キャンパスおよび立命館アジア太平洋大（APU）キャンパスで行われる総長候補者選挙人会向け、10月16日に総長候補者が総長候補者推薦委員会により推薦・公示された。総長候補者として高倉秀行氏（65）、吉田美喜夫氏（64）、渡辺公三氏（65）の3人が推薦された。11月3日に立命館大学新聞社は立命館大学放送局・学友会中央常任委員会と合同で吉田氏、渡辺氏に総長就任後の各自の大学運営や選挙に当たっての意気込みなどについてインタビュールを行った。

10月29日には、総長候補者討論会が、朱雀キャンパスで実施され、3人候補者への質疑応答などが行われた。各候補者の推薦理由を所信表明・討論会の動画は、総長選挙に関するページで見ることが出来る。
お断り、高倉氏は今回の合同インタビュールを辞退されました。公表された所信

高倉秀行氏

たかくら・ひでゆき 大阪大学基礎理工学研究科後期博士課程単位取得退学、博士（工学）。研究分野は半導体電子工学。富山県立大学工学部教授を経て、現在立命館大学理学部教授。著書に「薄膜シリコン系太陽電池の最新技術」（シーエム出版）など。
2004年から07年には立命館大学工学部長、立命館大学理事・評議員。他に10年から12年まで立命館大学図書館副館長を務める。太陽電池とくに高性能太陽電池の開発に従事する。

吉田美喜夫氏

よしただ みきお 立命館大学大学院法学研究科民法専攻後期博士課程単位取得退学、博士（法学）。研究分野は労働法。著書に「イ労働法研究序説（兎澤イ労働法）」など。現在は立命館大学法学部法学研究科教授。他に京都府労働審判委員会や草津市人権擁護審議会会長などを務める。

渡辺公三氏

わたなべ こうぞう 京大大学院社会学研究科文化人類学専攻後期博士課程単位取得退学、博士（文学）。著書に「マルセル・モワヌの世界」（平凡社）など。研究分野は文化人類学・アフリカ論・人類学。現在は立命館大学大学院先鋒総合学術研究科教授、立命館大学副総長も務める。



学生本位の学園作りを 品格のある大学を目指す

吉田美喜夫氏



「今年6月に学校教育法の一部が改正され、以前より学長の権限が強化された。学長の性格が変化していく中で、どのような総長像を目指すか。
「改正の狙いは、学長にリーダーシップを期待させ、スピード感を持って大学運営させるところにある。リーダーシップは必要だが、いくら総長が一方的に決めても、政策的に決めてからというのが現場では必要だと感じている。総長の人たちが、総長のリーダーシップを持って、職員と支えられて初めて発信できる。そのためには、目標や課題が十分に構成員の間で共有される必要がある。また責任と権限は不可分である。権限を振りかざすのではなく、責任を果たせるような大学・学園を目指すべき。」
「教育機関は、教育・研究が、安定的に進められていることが重要である。いくら個性が強くていいから、教員や学生が全構成員で、十分に体現されているか、という点は問わなければならない。」
「本学の強みである全構成員の声をしっかりと聞いて、決めたら着実に実行するという点が、現在弱まっている点ではないか。本来の姿を回復することが、立命館の独自性を発揮することにつながる。昨年、322億円の独自性を発揮することにつながった。昨年、322億円の独自性を発揮することにつながる。昨年、322億円の独自性を発揮することにつながる。」

渡辺公三氏



「今年6月に学校教育法の一部が改正され、以前より学長の権限が強化された。学長の性格が変化していく中で、どのような総長像を目指すか。
「世の中に、学長にリーダーシップを求めている動きがある。しかし他大学の学長がその意見をみても、それぞれの大学の個性や歴史の蓄積をどう活かすか、という点で、学長が求められる。」
「R2020と国際化政策についての展望は、川口清史総長の下で厳しい議論を突き詰めて基本的な確認事項までできている。現在の議論は、R2020の後半期をどう進めていくかが論点になる。新しい総長は政策の連続をベースにして政策を進めていく。筆頭に挙げられるべきは、自身の研究分野である。」

「「労働法」をどのように大学運営に反映させるか。健康的に働ける学園を作っていく。また学生が就職した時にブラック企業で苦しむことがないよう、大学時代に必要知識を全ての学生が身に付けられるような取り組みが必要ではないか。」
「学生へのメッセージを、私は皆さんと同じように立命館に入学して、今日まで学んでこられた。私は立命館に育ててもらったと思うので、心から入学して良かったと思つた。立命館に入ってしまった。立命館が皆さんに立命館を品格のある、そして社会から尊敬される大学にしたい。立命館が皆さんにとって「魂を切り開いていく場所」となるよう最大限努力していきたい。」